

# やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	15 / 2000 / 25-28
タイトル	花を求めて
著者名	二唐寿郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 花を求めて

第7代 二唐 壽郎

一昨年永年勤務していた教員生活にピリオドを打ち、待ちに待っていた時間を自由に使える身分になった。今までは、夏休みか土日以外いくら天気が良くても出かけられなかった山へその日の天気、気分によっていつでも出かけられることのうれしさは口では言い表しがたい物がある。

趣味の植物写真を撮るため、植物についてもっと勉強したいと思い R A B 学苑の「野生植物の講座を一昨年から受講し植物研究家の葛谷孝先生から4月から10月までは野外研修、11月から3月までは植物検索を中心とする屋内研修を受けている。

植物は高校の頃から好きで高校に入ってからすぐ自然科学部生物班(当時はまだ生物部では無かった。1年先輩の五十嵐豊さんなどの尽力により生物部として独立した)に入ったのもそのためである。この頃主に歩いた場所は八甲田山だった。勿論今のようにロープウェイなどなかった時代だったので酸ヶ湯から登り仙人平から大岳そして毛無平、酸ヶ湯がコースだった。一昨年このコースをカメラ一式担いで挑戦したが本当に途中でカメラを放り出したくなるほど疲れてしまい体力の衰えを身をもって知らされた。

そのため最近ではロープウェイを利用してカメラも軽いデジタルカメラに変えて歩くことにしている。後は近くの里山を中心に月に2、3回撮影に出かけている。

## 野外研修を含め今年撮影に出かけた場所と撮影目的の植物

月 日	場 所	撮影目的の植物
4月9日	梵珠山	マルバマンサク
4月18日	下 湯	マルバマンサク
4月29日	眺望山	ヒメホテイラン
5月09日	東 岳	シラネアオイ
6月06日	八甲田山麓	オオタチツボスミレ
6月20日	十二湖	スズムシソウ、エゾタツナミソウ
7月09日	八甲田山	ミヤマオダマキ
7月18日	秋田駒ヶ岳	コマクサ
8月22日	梵珠山	オクトリカブト
9月12日	岩木山山麓	オオアカバナ
9月27日	八幡平	ミヤマリンドウ
10月10日	八甲田山麓	キンコウカ (草紅葉)
10月19日	尻屋埼	コハマギク
10月25日	下 湯	紅 葉

### 1 今年撮影した中で特に花の美しい植物。

4月29日、青森市後潟にある県民の森『眺望山』ヒメホテイランの撮影に出かけ



た。今年はこちら 5、6 年暖冬少雪だったのと違い 2 月下旬にかけて 1.5メートルもの積雪がありそのため雪消えも遅く登山道入り口にはまだ 50センチ位も残雪があり果たして行けるのか心配だったが登るにつれ雪が少なくなりほっとした。約 30 分ほど登った林床に人目を忍ぶようにひっそり咲いていたヒメホテイランを見つけた時は、参加していた仲間一同歓声を上げた。盗掘によりだんだん数を少なくしているこれらの植物、特にランの仲間は特殊な環境でなければ生育しない物が多いので保護対策が必要であることを実感した。

6月20日、観光地で有名な十二湖の付近でスズムシソウが咲いている時期だと言うので葛谷先生と学苑の仲間と出かけた。

上記のヒメホテイランと同じように滅多に見つけることが出来ないので果たして見つけられるのか心配だった。

ヒバの生えているところを中心にみんなで探したが見つからず半分あきらめかけていた時、足下に探していたスズムシソウが草陰に隠れるように咲いていた。1本見つかると不思議な物で次々に 5株ほど見つけることが出来た。神の造形とはいえ、スズムシとそっくりな花の形に驚かされた。

ずっと前からミヤマオダマキの写真を撮りたいと思っていたが勤めていた頃は丁度 1 学期の終わりで忙しく出かけられないでいた。

棟方啓爾先輩のホームページ (<http://www.abc.ne.jp/~munakei/> 『八甲田花ごよみ』) を開いてみたら 6 月下旬から咲き始めていることがわかり 7 月 9 日朝起きたらすばらしい天気なのですぐカメラの準備をして出かけた。

途中 10 回ほど休憩し、最後の登りでは 100 歩毎に休みという情けない有様ながらどうやら赤倉岳頂上にたどり着いた。足下のハイマツに囲まれてあっちにもこっちにもたくさんさんのミヤマオダマキが咲き誇っていた。強い風の合間を見ながら待望の写真を撮ることが出来た。



## 2 秋田駒ヶ岳を訪ねて

今年度の野外講座で一番楽しみにしていたのは 7 月 18 日に行われた秋田駒ヶ岳へコマクサを観察に行くことだった。

高山植物の女王と言われるコマクサは、残念なことに県内の山では見られないため八甲田山、岩木山など県内の山しか登った経験のない私にはまさに高嶺の花でしかなく何百枚の植物のスライドも全部県内の植物ばかりである。

以下秋田駒ヶ岳の様子と、そこで出会った植物について紹介する。

青森を午前6時30分出発高速道路を碓ヶ関インターで降り田沢湖を經由して10時ちっと過ぎ目的地へ到着した。一般車の乗り入れ規制があるためバス以外は麓に車をおいてバスに乗り換え八合目まで行かなければならない。ただ規制のかかる6時前であれば自家用車でも行けるようである。



バスを降りてまず驚いたのは、登山者の多いことであった。私と同じくらいの60歳を過ぎたであろうと思われるご婦人方が頂上を目指して立錐の隙間がないほどに延々と頂上を目指している。

私は、道中長いのでその前にトイレへ寄って行こうと思ったらなんと長蛇の列。男性用はまず5分位で順番が回ってきたが女性用はもっともっとかかるらしく中には勇敢な女性があり男性トイレに割り込んで、用を足している我々男性が気恥ずかしい思いをするくらいであった。と言うわけで予定より30分位も遅れて出発することになってしまった。

細い一本道の登山道を歩きながら左右を見て植物をゆっくり観察しようと思うなんてもってのほか、少しでも立ち止まろう物ならたちまち後ろからなにをされているんだと言わんばかり怖い目でにらみつけられる。中高年や小学生でも気軽に登れることと登山ブームと言うことで日曜日の山は皆こんな物なんだろうか？  
静かな自然に浸り澄んだ空気を吸いながら高山植物を心ゆくまで観察しようなんてとんでもないことだった。

そんな気分に入るためには、土日祝日をのぞいて誰もまだこない早朝に行くしかないようである。

一人で愚痴をこぼしながらも講師の葛谷先生の後ろにぴったりくっつきながらカメラを首にぶら下げ目に付く植物をメモし、すごいテクニック？で速写しながら歩いた。

30分ほど歩いたところで道は平坦になり霧がかすむ中、左右に草原が開け一面にニッコウキスゲの群落が続く。ニッコウキスゲそのものは田代湿原、ベンセ湿原など青森県内でもたくさん見ることが出来るが霧にかすむ秋田駒ヶ岳で見るとまた違った趣がある。

その後だらだらと緩斜面が続きやがて駒ヶ岳の麓の赤土広場の沼に到着した。そこで昼食、休憩を40分ほどとり、急な斜面を登るといよいよ頂上へ。30分ほどで到着。

火山礫の周りにロープに囲まれその中に、初めて目にするコマクサがあっちに一株こっちに一株と50株ほど名前のように駒の顔の形をしたピンク色の花を咲





かせていた。

ロープから 5 メートルくらい離れた場所に咲いているため 100 ミリのマクロレンズでは少し遠かったが夢中になってシャッターを押した。

後は一気に下山し午後 7 時青森に到着した。

青森から日帰りは可能ではあるが、ゆっくり植物を観察しながらであれば、一泊で普段の日を選ぶことが賢明である。

来年は、今年撮れなかったエゾツツジを撮りにもう一度行きたいと思っている。

### 今回の登山で観察できた植物一覧

《8 合目から頂上まで観察順 岩手植物誌参考》

モミジカラマツ	キンポウゲ科	ズダヤクシュ	ユキノシタ科
アカモノ	ツツジ科	ベニバナイチゴ	イチヤクソウ科
ヤマハハコ	キク科	ショウジョウバカマ	ユリ科
オニアザミ	キク科	ハクサンシャクナゲ	ツツジ科
ヤマブキショウマ	バラ科	ミネカエデ	カエデ科
ウラジロヨウラク	ツツジ科	ミヤマトウキ	セリ科
ネバリノギラン	ユリ科	オノエラン	ラン科
ハクサンチドリ	ラン科	ニッコウキスゲ	ユリ科
オオバクスマレ	スマレ科	イワカガミ	イワウメ科
マルバシモツケ	バラ科	ミヤマダイコンソウ	バラ科
ハクサンボウフウ	セリ科	ウメバチソウ	スマレ科
イワオトギリ	ゴマノハグサ科	チングルマ	バラ科
クモマニガナ	キク科	キバナノコマノツメ	スマレ科
ミネアザミ	キク科	コバノイチヤクソ	イチヤクソウ科
キリンソウ	ベンケイソウ科	エゾツツジ	ツツジ科
ミヤマハンショウヅル	キンポウゲ科	シラネニンジン	セリ科
タカネアオヤギソウ	ユリ科	ミヤマキンバイ	バラ科
ハンゴンソウ	キク科	オオバスノキ	ツツジ科
トウゲブキ	キク科	エゾシオガマ	ゴマノハグサ科
アマニュウ	セリ科	シロバナトウチソウ	バラ科
オニシモツケ	バラ科	ミヤマリンドウ	リンドウ科
ハクサンシャジン	キキョウ科	ガンコウラン	ガンコウラン科
ミヤマウスユキソウ	キク科	ヨツバシオガマ	ゴマノハグサ科
ウシノケグサ	イネ科	イワイチョウ	ミツガシワ科
タカネスマレ	スマレ科	イワブクロ	ゴマノハグサ科
オヤマソバ	タデ科	コマクサ	ケシ科